

平和記念だより



平和を語るつどい・

憲法記念平和映画祭

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 平和記念係
◆連絡先：高松市番町一丁目8番15号
TEL: 087-839-2293 FAX: 087-839-2291

5月21日（土）、高松市役所13階大会議室にて、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第1部「平和を語るつどい」では、太田幸子さんを講師に迎え、約140名の参加者を前に、高松空襲の体験談をお話いただきました。

当時6歳だった太田さんは、空襲で頭部に瀕死の重傷を負い、遺体の山のひとつとなっていたところを、虫の息があることに気付いた消防団員によって助け出され、偶然居合わせた伯母さんの手で病院へ運ばれました。意識のない太田さんに手厚い看護をしてくれた伯母さん。その看護のおかげで、無事に退院でき、退院後は伯母さんのお宅でお世話になりながら、附属小学校から短大まで進学・就職しました。

現在の太田さんは、お世話になった伯母さん夫婦への感謝の気持ちから、六角堂保存会に所属。毎朝、六角堂を掃除し、手を合わせていらっしゃるそうです。これまでずっと誰にも話さずにいた、つらい体験を涙ながらにお話くださった太田さんに、参加者の男性から「本当によく生き耐えられた。本当に良かった！」との言葉があり、会場が温かい拍手に包まれました。太田さん、ありがとうございました。



第2部「憲法記念平和映画祭」では『サクラ花 桜花最期の特攻』を上映しました。

六角堂…1958（昭和33）年、高松市戦災犠牲者遺族会によって高松市戦災犠牲者慰霊堂「六角堂」が高松市中野町に建立されました。毎年7月3日に慰霊祭が開催されています。



平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭の感想

最後まで国を、家族を守ろうと散った特攻隊や戦争を決して忘れてはいけないと思いました。今の平和な日本があるのは、太平洋戦争で亡くなった方がいるからだと思いました。僕もこれからの日本を平和で幸せに暮らせる国にしたいと思いました。（小・中学生 男子）



昨年、鹿児島の知覧に行き、特攻の話を聞き、資料を見てきました。その時の思いと重なって、とても悲慘な感を抱き、無意味な戦争をしてはならないと思いを強くしました。

（70歳以上 男性）

私の父もビルマで、20年7月の終戦まぎわに戦病死しました。私は父の顔を知りません。写真の父はいつまでも若く、ほぼ笑んでいます。今の平和はその人たちの犠牲の上にあります。いつまでも平和を願います。（70歳代以上 女性）

本日は高松空襲を体験された太田幸子様の貴重なお話を聞くことができ、本当に生死をさまようような大変な体験をされ言葉で言い表せないこと、悲しい体験を話していただきありがとうございました。戦争の悲慘さをあらためて知り、二度と戦争させない、平和な世界を実現させていくために、若い人々にも伝えていくことが大切だと思いました。

（50～60歳代 女性）

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



今年で3回目の参加になりましたが、毎回学校での平和学習では聞けないようなリアルな話を聞くことができ、とても勉強になります。六角堂の話は初めて聞きました。今回も戦争について深く知ることができました。

（高校・大学生 男性）

平和作文・詩の募集のお知らせ

あなたが思う平和とはどのようなものか、ふだん感じていることや平和への思いを作品にしてください。応募作品の中から優秀な作品を選考し、12月に開催予定の平和記念館開館記念事業において、賞状・記念品の授与を行うとともに作者による作品の朗読会を予定しています。

募集対象者：高松市内の小・中学校に通学する児童・生徒
募集作品：

作文…400字詰め原稿用紙（B4判） 3枚以内

詩 …400字詰め原稿用紙（B4判） 1枚程度

提出期限：平成28年9月20日（火）

詳しくは、人権啓発課 平和記念係までお問い合わせください。



夏の行事予定

高松市戦争遺品展



【日 時】8月5日（金）～10日（水）

【場 所】市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナー（常磐町1-3-1 瓦町FLAG8階）

【内 容】高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料の展示

今年のテーマは「銃後の生活（銃後の女性と子どもたち）」です。千人針や手投消火器のほか、じゅずや羽子板を展示します。

また、市民の皆さまから寄贈いただいた遺品の中からB29の残骸で作った盥（たらい）や紙製の防衛兜なども展示します。B29の残骸で作った盥は「さわれるコーナー」に展示しますので、ぜひお手に取ってご覧ください。



水差し



医薬品（陸軍衛生材料）



手投消火器



勲五等双光旭日章

同時開催 ユニセフ・パネル展

【日 時】8月5日（金）～16日（火）

【場 所】市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナー

高松市平和を願う市民団体協議会主催事業 高松戦災・原爆写真展

【日 時】8月11日（木）～16日（火）

【場 所】市民交流プラザ IKÔDE瓦町 展示コーナー

【内 容】原爆の惨状を伝えるパネル等の展示

イベントレポート

高松空襲写真展

7月1日（金）～7日（木）、高松市生涯学習センター エントランスホールにて、高松空襲写真展を開催しました。

空襲後の写真と現在の様子を撮影した写真を並べて展示した「焦土と化した市街地」コーナーでは、多くの来場者が街の移り変わりを興味深く眺めていました。



戦時用語解説50

銃後の女性（戦時女性）

太平洋戦争は総力戦であり、女性も兵士の戦意を高揚させる精神的支えとなるだけでなく、貴重な人的資源として戦争に参加した。

女性は生産現場に参加し、貴重な労働力となった。1941（昭和16）年11月の「国民勤労報国協力令」により、14歳から25歳までの未婚女性に年間で30日の労働義務が課せられた。

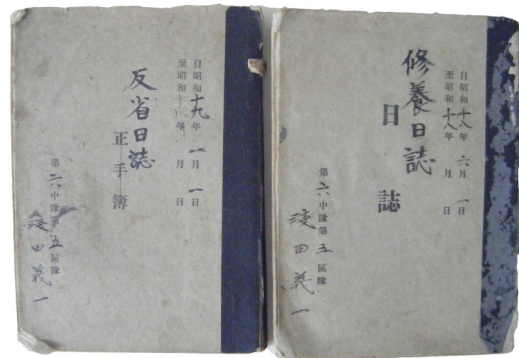
さらに1944（昭和19）年8月、「女子挺身勤労令」が出され、12歳から40歳までの女性に1年の勤労が義務付けられた。工場、通信、交通関係の職場に多くの女性が動員された。真剣に労働に打ち込む姿、目を伏せて一心不乱に機械に向かう女性の肖像が、雑誌の表紙を飾った。さらに主婦は、節約し、供出・貯蓄など国策に協力する経済戦の戦士としての役割を担った。女性は国内で戦争に参加した。銃後を支えたのは老いも若きも女性たちであった。（銃後とは、直接は戦争に参加しない一般国民や国内のこと）

参考文献「資料が語る、戦時下の暮らし」羽島知之

収蔵品紹介51 ≪最近の収蔵品より≫

【修養日誌】 提供者 浅田 博 様

提供者の叔父義一様の遺品。叔父は、当時、進んで兵士にならなくてはという雰囲気の中、「戦車兵」を志願したのではないと思われる。満17歳で静岡県富士宮市にあった「陸軍少年戦車兵学校」に入学。4年間で卒業する課程をわずか2年で卒業させられ戦地へ送られた。日誌は昭和18年6月1日から昭和19年5月9日までの2冊。サイパン島で玉砕したので、戦死する2か月前までの大変貴重な日誌だと分かる。日誌の冒頭



には「修養し得る身を感謝し、自ら自己の反省修養により、生甲斐を感じ、軍人として立派に大君の御楯と散りて、なお悔いざるべからず、常に故郷に父母あるを忘るなかれ」とある。終戦間近の特攻精神を植え付けるものではなかったかと思える。ほぼ毎日、400字から500字程度でそれも大変美しい字で書かれている日誌に只々感心させられる。とにかく2年足らずの短期間での成長に驚かされる。実に厳しい修養であったであろうことが伺える。

編集メモ

来月5日からの高松市戦争遺品展は、IKŌDE瓦町での初めての開催となります。ことடன்瓦町駅周辺へお越しの際には、ぜひ瓦町FLAG 8階までお寄りください。皆様のご来場をお待ちしています。



▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>